

第5分科会 医療施設と在宅をつなぐケア

～多職種連携で患者を支える～

- ◇運営委員 高橋 多鶴子 (全日赤医療センター第一労組)
小笠原めぐみ (慶応病院労組)
小菅 純子 (勤医会東葛病院患者サポートセンター)
- ◇助言者 内野 陵子 (元勤医会東葛看護専門学校副校長)

安倍政権が進める社会保障・税「一体改革」のもと、医療・介護の提供体制が再編成されようとしています。つまり2025年をめどに医療費抑制のための病床削減、「地域包括ケア」の構築です。そして、「地域医療構想」では、H28年9月末で20都道府県が策定を済ませ、各都道府県からの病床機能報告が提出され、実態を踏まえない病床削減、在宅医療体制が未整備のまま矛盾だらけの協議が進められています。

このような状況の中、超急性期、急性期病院に入院した医療依存度の高い患者が、短期間で在宅療養、あるいは療養型病院への転院を余儀なくされています。更に、4人のうち1人が超高齢者となった社会では、老老介護・認認介護・独居生活者が、在宅療養を送るために相当な援助が必要となり、在宅の現場ではスタッフも家族も毎日奔走している状態です。また、医師業務を「特定行為看護師研修制度」として看護師が行い、看護業務が無資格者に移行しています。在宅療養の担い手である、訪問看護や、訪問診療、訪問介護のニーズは多種多様となっていますが、まだまだ従事するスタッフの処遇改善が不十分であり、その数は充足していないため、多くの課題や問題が生じています。

この分科会は、もともと「外来看護」から発展してきた分科会です。医療と介護の両面から検証していくことが求められている今、病院や診療所などの医療施設に従事するスタッフと、在宅療養を支える訪問看護、訪問診療、訪問介護にかかわるスタッフが、「患者が安全で安定した在宅療養生活をおくるために、どのように連携し、それぞれの専門性を発揮し、役割を果たしてゆくのか、患者のニーズに即した実践をしてゆくのか」について実践レポートから学び、経験交流します。多職種が参加し、楽しく、元気の出る分科会です。

■レポート募集 (以下の内容のレポートお待ちしております。)

- ・外来看護の実践報告
- ・在宅療養移行のための退院調整や地域連携の取り組み報告
- ・訪問診療、訪問看護の実践報告
- ・介護施設や訪問介護での実践報告